

2023 年 10 月 22 日

Peopke's democracy

(インド共産党 M 機関紙)

「米国のイスラエルの犯罪への加担」

14 日、バイデン大統領はテルアビブを訪問した。それが何かを示したとすれば、まずなによりイスラエルの入植者植民地国家に対する絶えることのない、盲愛的な支援である。

米国はイスラエルを西アジアにおける前哨基地として育ててきた。そして軍事大国にするために、何十億ドルもの援助と洗練された武器や装備を注ぎ込んできた。

そのかたわらで、米国はパレスチナ人民への抑圧、彼らが受けた残虐行為、ヨルダン川西岸地区などの占領地で進行している民族浄化を見過ごしてきた。

過去 16 年間、230 万人のパレスチナ人が住むガザの非人道的な封鎖を支持してきた。

近年、イスラエルがヨルダン川西岸地区でのユダヤ人入植地を拡大し、

アパルトヘイトのような制度を押し付けている。そのことによって、2 国家方式を積極的に損なっている、

米国とその西側の同盟国は、この極悪非道な計画に加担してきた。

バイデンの訪問に先立ち、国務長官ブリンケンはイスラエルと他のアラブ 5 カ国を飛び回った。イスラエルがガザへの地上侵攻を準備している間に、彼はエジプトやヨルダンといった近隣諸国の協力を取り付けようとしたのだ。

ブリンケンはエジプト大統領に、ガザのパレスチナ人がラファ交差点を通過してエジプトに移動することを提案したが、説得できなかった。

なぜなら、シシ大統領が明らかにしたように、いったんパレスチナ人がエジプトに押し出されたら、ガザに戻ることは許されず、エジプトで永久難民となるからだ。

ヨルダンもまた、ヨルダンへの人の移動を検討することを拒否した。

ガザ侵攻におけるイスラエルの正当防衛の権利を全面的に支持してしまってから、米国は差し迫った生命の危機を必死で防ごうとした。

バイデンがテルアビブに到着する前夜、ガザ南部のアル・アフリ聖公会病院が爆撃された。それは恐ろしい大虐殺を引き起こした。

この陰惨な攻撃は、イスラエル軍がガザ北部の22の病院に対し、24時間以内に患者とスタッフを避難させるか、責任をとるよう命じたあとに、それを引き金に起こった。

避難命令が出されたのは10月12日の夜だった。そしてアル・アハリ病院が最初にロケット弾の攻撃を受けたのは15日のことだった。

いまイスラエルは、病院への爆撃は自分たちに責任はないと主張している。そして「爆発はイスラム聖戦機構が発射したロケット弾の失敗によるものだ」と主張している。軍事専門家や多くのメディア・コメンテーターは、「ガザ武装勢力はそのような強力な爆発物を持つロケット弾を保有していない。このような

強力な爆弾を持っているのはイスラエル軍だけである」と指摘している。

それにもかかわらず、バイデン大統領は恥知らずにもイスラエルの言い分を支持し、「他のチームがやったことだ」と言った。(It was done “by the other team”)

こうしてバイデン大統領は、イスラエルによる戦争犯罪に加担することになった。

バイデン大統領は、アンマンで開かれるはずだったヨルダン、エジプト、パレスチナ自治政府の指導者たちとの会談をキャンセルされ、鼻であしらわれた。

アラブの指導者たちは、たとえアメリカの同盟国であっても、イスラエルがこの恐ろしい犯罪を犯した時期にアメリカ大統領と会うことはできなかった。

バイデンがイスラエルに滞在していたまさにその日、米国がイスラエルをかばうためならどんなことでもするということが明らかになった。国連安全保障理事会で、ガザへの救命物資の輸送のために「人道的な検問一時停止」を求める決議案をブラジルが提案した。なんとこれに対

し、アメリカが拒否権を発動したのだ。

ガザへの人道的物資の輸送を求める提案に対してアメリカは拒否権行使したのだ。それは、ガザの人々の食糧と医薬品を絶望的な不足に陥れている暴挙について、アメリカが共犯関係にあることをまざまざと示している。

その一方でバイデンは、訪問から帰った後、イスラエルの戦争内閣に対し膝を折り、ラファ交差点からガザへの救命物資の輸送を許可するよう要請した。

その結果、物資を積んだトラック 20 台が、10 月 20 日から通過できる事になった。それはエジプトがイスラエルによって爆撃された交差点の道路を修復するための所要時間である。

国連の救援機関は、最低限の救援を提供するだけでも、少なくとも毎日

100 台の援助物資を積んだトラックが通過することになるだろうと述べている。

イスラエルによるガザへの地上侵攻は、この地域の紛争を拡大するだろう。すでにレバノンのヒズボラは、このような攻撃が行われた場合、黙ってはいないと表明している。

アラブ世界と西アジア全域で、イスラエルのガザでの残忍な攻撃に対して、人々が街頭に出て抗議している。

ガザ紛争は、発生後 11 日目にして 1,100 人以上の子供を含む 3,000 人以上の死者を出した。米国は、政治的・軍事的にイスラエルを支援し続けている。そのことで、世界の目からの非難の声を一心に受けつつある。

以上（仮訳：編集部 SS）

訳出にあたって、Web 上の翻訳ソフトを利用、結果を一部修正した。仮訳として理解されたい。記事はすべて仮訳であり、利用により生じた損害に責任を負わない。